



展覧会

ちくご ist 深よみ 古賀春江

このたび、久留米市美術館では、「ちくご ist 深よみ 古賀春江」展を開催いたします。

古賀春江（1895－1933）は、今から 130 年前、久留米市の浄土宗寺院・善福寺に生まれました。読書と絵を描くことを好む多感で内省的な少年は、僧侶への道に進まず画家を志します。明治から大正に変わる 1912 年に上京、その後も東京と久留米を往還しながら、1933 年に病を得て亡くなるまで全力で絵と格闘しました。その間、彼の絵画は、変動の時代を映し出すかのように、変貌をつづけます。

この展覧会は、アーティゾン美術館と久留米市美術館の所蔵作品と資料を中心に構成します。残されたスケッチブック、ノート、手紙、さらに当時の本や雑誌などを読みとくことで、その生涯と画業を丁寧にたどります。本展が古賀を身近に感じてもらう機会となることを願っています。

展覧会名	ちくご ist 深よみ 古賀春江
会期	2025 年 11 月 8 日(土)～2026 年 1 月 18 日(日) 月曜休館（11 月 24 日、1 月 12 日は開館） 年末年始休館（12 月 28 日～1 月 3 日）
作品数	約 210 点 古賀春江作品 108 点（油彩 16、水彩 22、スケッチ類 55、書簡 15） / 松田諦晶作品 26 点（油彩 19、資料 7） / その他の作家 20 点 / 本・雑誌などの資料約 50 点
会場	久留米市美術館
主催	久留米市美術館、毎日新聞社
後援	久留米市教育委員会
スペシャル パートナー	株式会社ブリヂストン
オフィシャル パートナー	学校法人久留米大学、株式会社筑邦銀行、株式会社森光商店、喜多村石油株式会社、株式会社ユー・エス・イー
入館料	一般 800 円（600 円）、シニア 500 円（300 円）、大学生 400 円（200 円）、高校生以下無料 ・ 障害者手帳等の交付を受けている方とその介護者 1 名は無料となります ・（ ）内は 15 名以上の団体料金、シニアは 65 歳以上
開館時間	10:00－17:00（入館は 16:30 まで）
交通案内	JR 博多駅より JR 久留米駅まで新幹線で 20 分、在来線快速で 40 分 福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で 30 分、急行で 40 分
本展に関する お問い合わせ	久留米市美術館（公益財団法人久留米文化振興会） 担当：森山秀子、宮崎晴子 〒839-0862 福岡県久留米市野中町 1015（石橋文化センター内） TEL0942-39-1131 / FAX0942-39-3134 https://www.ishibashi-bunka.jp/kcam/

※開催情報に変更がありました場合には、随時、当館ホームページ、SNS 等によりお知らせいたします。



展覧会の構成

序章 古賀春江ってどんな人？

古賀の2点の《自画像》と《好江夫人像》によって、古賀についての基本情報を伝える。1915年に会い、やがて結婚することになる好江夫人は、物心両面から古賀を支えた。



1.古賀春江《自画像》
1916年



2.古賀春江《好江夫人像》

第1章 水彩画家（1912-1920）

1912年に中学明善校を中退し上京した古賀は、太平洋画会研究所と日本水彩画研究所で水彩を学ぶ。水彩画専門を任じていた古賀の1920年以前の初期水彩画を紹介。



3.古賀春江《庭》

第2章 松田諦晶との交流（1914-1922）

最初に絵の手ほどきを受けた久留米の洋画家、松田諦晶（1886-1961）との1922年までの交流を紹介。松田に宛てた書簡で古賀は芸術論を展開している。



4.松田諦晶《柳河町裏》
1914年



5.古賀春江《埋葬》
1922年



6.古賀春江《二階より》
1922年



第3章 前衛への道

古賀は、1922年の第9回二科展で二科賞を受賞し、画壇デビューを果たす。1922年から1928年までと1929年以降の2期に分け、あわせて、とくに後半生に多く手がけたデザインの仕事も紹介する。

1) 学びのあと（1922-1928）

イタリアルネサンスからセザンヌ、ピカソ、ローランサン、ミロ、シャガール、クレーなどの受容を考察し、古賀の学習意欲をさぐる。



7.古賀春江《牛を焚く》
1927年



8.古賀春江《山ノ手風景》
1928年

2) 前衛画家として（1929-1933）

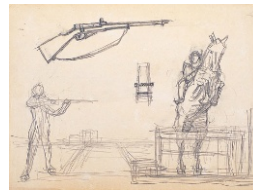
1928年頃に日本のおもに詩壇で巻き起こったシュルレアリスムの渦の中に古賀をおくことで、古賀がめざした絵画世界を考察する。



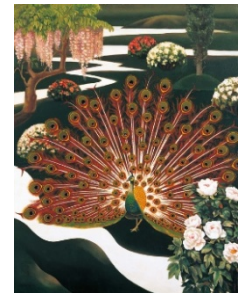
9.古賀春江《素朴な月夜》
1929年



10.古賀春江《現実線を切る主智的表現》1931年



11.古賀春江《〈現実線を切る主智的表現〉のためのスケッチ》1931年



12.古賀春江《孔雀》
1932年

3) デザインの仕事

古賀が手がけた本や雑誌の表紙・挿絵などを下絵とともに紹介する。

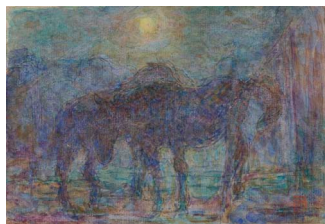
第4章 ふたたび松田諦晶

古賀は亡くなる直前の1933年の夏に帰郷した折、坂本繁二郎や松田を訪ねている。故郷の先輩を慕っていた証である。松田もまた、古賀を終生忘れることはなかった。古賀没後の松田の画業と、古賀顕彰を紹介。



番外編 古賀春江をとりまく人々（ちくご ist 古賀春江）

本展は、筑後にゆかりのある作家をとりあげる「ちくご ist」シリーズの第2弾として開催するもの。「ちくご ist（筑後人）」としての古賀に注目するとともに、古賀と交流のあった作家たち（青木繁、坂本繁二郎、高島野十郎、東郷青児、児島善三郎、安井曾太郎、松田諦晶、高田力蔵、豊田勝秋ら）を紹介。



13.坂本繁二郎《月下の馬》

関連イベントのご案内

朗読会

古賀春江は詩作も行いました。とくに絵画と同じタイトルをもつ詩に注目し、齋藤豊治氏の朗読で古賀の絵画作品の世界に浸ります。

「詩と映像で楽しむ古賀春江の世界」

出演：齋藤豊治氏（演出家、九州大谷短期大学名誉教授）

11月22日（土） 14:00-15:00（開場 13:30）

会場：石橋文化会館小ホール

定員：120名（申込不要、当日受付順）

美術講座

「古賀春江再考」

講師：森山秀子（久留米市美術館副館長、本展担当）

11月29日（土） 14:00-15:30

連続美術講座 「時代を描く～ピアズリー、橋口五葉、古賀春江」第5回、第6回

本年度開催する3本の展覧会を通して行う連続講座（全6回）の最終回。

「古賀春江と松田諦晶」

講師：森 智志（久留米市美術館学芸員）

12月6日（土） 14:00-15:30



「古賀春江の時代」

講師：宮崎晴子（久留米市美術館学芸員）

12月20日（土） 14:00-15:00

※上記、美術講座および連続美術講座の会場等について

会場：久留米市美術館 1F 多目的ルーム

定員：50名（申込不要、当日着席順）

ギャラリートーク

担当学芸員による

11月9日（日）、12月7日（日） 14:00-15:00

学芸員による

11月16日（日）、12月21日（日）、1月4日（日）、1月11日（日） 14:00-14:30

サポートボランティアによる

11月15日（土）、12月13日（土）、1月10日（土）、1月17日（土） 14:00-14:20

※ギャラリートークの集合場所：美術館2階エントランス

作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. web ページ掲載の場合は、必ずコピーガードの処理をお願いします。
6. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
7. 掲載見本を必ず1部お送りください。